

ふくろいスマイル座談会 ⑫浅羽北地区

【開催概要】 総合計画及び都市計画マスタープラン策定のために、地域の未来について、大場市長と住民との意見交換を行う「ふくろいスマイル座談会 浅羽北地区」を以下の通り開催しました。

日時	令和6年10月26日(土)10時~11時40分
場所	浅羽北コミュニティセンター【参加人数:30人】
内容	1 開会 2 まちづくり協議会/会長あいさつ 3 市長あいさつ 4 報告事項 (1)袋井市総合計画策定の進め方について (2)袋井市都市計画マスタープランの見直しについて (3)地区まちづくり協議会における「活動方針」の策定について (4)質疑応答 5 意見交換「袋井の未来のコト」や「地域の将来のコト」など 6 閉会



「ご意見・ご提案」用紙から

- 計画に対する成果が、定量的な方が分かりやすい。挨拶と説明時間のバランスに配慮。
- 諸井自治会内の小学生の通学ルートを、安全・安心の視点で見直して欲しい。
- 浅羽支所を活用したあそびの杜の計画推進の再考をお願いしたい。
- 温室メロンの担い手不足と高齢化、今後の空き温室等の利活用の検討。浅羽中までの避難路の橋梁の耐震診断等の対応をして欲しい。
- 馬伏塚城の御城印の製作について提案。

●当日の意見交換の主な内容（※現総合計画の「政策」分野ごとに整理しました）

安全・安心に暮らせるまち

- 防災訓練での安否確認のやり方が良くない。浅羽北地区では「黄色いタペストリー掲出」の取組をおこなっているが、所感を聞かせてほしい。
⇒ 発災時には、安否確認、初動体制が重要。デジタル技術の導入も検討しているが、アナログ手法との併用を考えている。地域独自の取組をしていただき感謝している。ハンカチ形式など、他地域での取組もあると聞いている。
- 浅羽北地区の「黄色いタペストリー」の配布は、自治会加入者のみ。市内への転入時に配布するなど市全体で導入してほしい。
⇒ 自治会未加入者への対応や、市全体となるとコスト的なことも含め、ご提案が可能かどうか担当課で検討してみたい。
- 防災面では、防潮堤や命山などインフラ整備の進捗を感じているが、要支援者の避難対応などソフト面での整備についても検討する必要がある。
⇒ 地域でも要支援者の台帳があり、対応を検討してくれていると思う。地域の力を借りながらソフト的な対策もしっかり整備していきたい。
- 消防団の運営費用が少ないと聞く。市からもう少し費用を工面してもらいたい。
⇒ 3年程前から待遇改善（報酬の直接払い）をしてきた。現在、消防団のあり方を検討しているので、推移を見守り行政の出来ることを支援していきたい。
- ゲームアプリに使用されているジャイロセンサーの導入は、災害時の安否確認に良いと思う。アプリの開発は、災害時や高齢者の見守りにも役立つと思う。
⇒ アプリの開発業者から製品紹介の機会等あるので、良いものがあれば新しい技術を取り入れていきたい。

市民がいいきと活躍するまち

- 私は40代だが、市の未来を考える今日のような会へ、若い世代の参加が多くなる取組が必要ではないか。
⇒ 若い世代や女性の参加が少ない。地域の皆さんの力もお借りして声かけし、幅広い人たちと意見交換をしたい。
- コロナ後の祭典は、子どもや親世代が集まってコミュニティが賑わいを回復している。
⇒ 今年はコロナ終息後初の制約なしの祭典が開催された。地域コミュニティの維持に祭典の価値が改めて認識された方も多かったと思う。

市からの説明資料について

- スライドが見えにくく、現行計画の評価、成果や課題等もわからない。資料の改善をしてほしい。
⇒ 本日はキックオフとして市からの報告を中心に資料を作成した。説明資料は抜粋版でわかりにくい箇所があったことをお詫びする。
計画の評価は毎年度行い、市議会への報告やホームページ等で公表している。計画期間10年の5年目にも見直しを行い後期計画に反映し、策定している。現行計画全体の評価や課題の抽出は、現在、総合計画審議会等で行っており、公表する予定。